

■エリーニ・ユネスコ協会U'sの活動

4月

4/11 ユネスコ・スクール小学校協力

4/29 地域まつり協力

5/7 ユネスコ・スクール小学校協力



5月

6月

6/5 歴史ウォーク



6月

7/30 ユネスコ・スクール小学校協力

大阪・サンフランシスコ・ユースコネクト(SOYNET)参加

大阪市・SF 姉妹都市を結ぶユースの国際交流事業でサンフランシスコからの高校生アンバサダーと大阪大学、ユネスコ・スクールの高校・小学校や地域の子どもたちをつなぎ、大阪各地や祭(住吉祭)などを案内しました。

8月

8/27 夏休みユネスコ寺子屋教室

この夏学ぼうみんなの地球と題し
自由研究をサポート!



10/1・2 : グローバル・フェスタ JAPAN2016 (東京)
10/22・23 : ワールド・コラボ・フェスタ2016 (名古屋)

10月

10/23 ユネスコ・スクール小学校協力



11月

11/13 晴明丘寺子屋教室 毎月開催

12月

12/4 歴史シンポジウム

12/9~11 南北コリアと日本のともだち展大阪展

1月

12/23 ワン・ワールド・フェスティバルfor Youth

1/7~9: ユネスコ青年全国大会 (東京)

1/29 晴明丘寺子屋教室 金剛組との文化推進プロジェクト検証
メッセージボードづくりと挨拶の語源、多言語での挨拶

2月

2/4・5 ワン・ワールド・フェスティバル

3月

3/12 3・11を忘れない シネマ・フューチャーセッション

日本ユネスコ協会連盟制作「雄勝法印神楽の復興」映画上映と
同じ映画を見て語り合うシネマフューチャーセッション

3/20: U-COME (UNESCO communication meeting 名古屋)

2016 4月～2017 3月

南北コリアと日本のともだち展大阪展

「21世紀を平和の世紀にしたい」という願いから 2001年にスタートした絵画展「南北コリアと日本のともだち展」。大阪では今年で6年目。大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国、中華人民共和国、そして日本に住む子どもたちの絵をひとつの会場に展示し、絵で互いを紹介しあいながら、東北アジア地域の平和について考えます。今年の絵画のテーマは「私の一日を紹介します」で、直接には出会うことが難しい子どもたちが絵を通して、一日の中で一番好きな時間を描き、身近な生活を紹介し合いました。絵画の中で互いの生活文化を知ることができ、メッセージを交換しました。こどもワークショップ「平和コンサートをつくろう!」はこどもたちや全国から青年たちが集い、カホンに平和のメッセージを書き、音を奏していました。



学生交流(東京展) 2/16~19



千代田3331



河内湾の環境と遺跡から見た縄文社会
天理大学付属天理参考館特別顧問 松田真一氏

縄文時代の早期は落葉広葉樹が優勢で、平野区長原遺跡で早期の遺構面が検出されている。中期あたりになると河川の土砂の運搬堆積が進行し湾は潟へと変化し、やがて水域は次第に淡水化が進み、海と隔離され、河内湖ができるものと理解される。このころの遺跡としては、住吉区の南住吉遺跡、茨城市新庄遺跡などで有茎尖頭器が出土している。縄文中期は遺跡数が二・五倍から三倍に増加する。遺跡は土器の発見やマガキや淡水シジミの堆積やクジラやイルカ、犬などの骨が縄文土器と共に見つかっている。後期になつて森之宮遺跡で貝塚が多く見られる。

森之宮貝塚の調査成果と府内縄文遺跡の最近の調査について
大阪府教育庁 文化財保護課 主任専門員 渡邊昌宏氏

長原遺跡(早期から晩期まで)
宰相山遺跡(早期中葉～中期中葉)
勝山遺跡(早期末～前期初頭)
千提寺南遺跡(早期末・前期・中期末・後期・晩期)
府中遺跡(前期中葉・中期前葉～中期)
中期末～晚期後葉
森の宮遺跡(中期前葉～晩期末)

国府遺跡の縄文前期からは思いのほか小規模であつたと推定される。彼らの使ついた土器の文様は近畿から瀬戸内に共通性を示し、耳飾りを持つことでも彼らの開明性をうかがい知ることができる。国府遺跡の縄文晩期は前期ほどまとまりはなかつた。ただ抜歯人骨の出土は興味深い資料。抜歯には何らかの社會規範として重要な役割を果たしていた。

縄文人のアカセサリーと抜歯の風習
奈良大学非常勤講師 天野未喜氏

大阪展・絵画展 12/9～11
平和コンサート 12/11

松田真一先生・渡邊昌宏先生・天野未喜先生
食料についてはクジラも取つて食していた。またイノシシやしかも狩りをして食していた。森での生活は二家族分十人ぐらいの単位の集団で食料を集めていたようだ。縄文時代の中期、後期では、府内では総勢五百人程で、南部は百人ぐらいの集団で構成されていた。住居は堅穴式で三メートルから四メートルで五人ほどで住んでいた。(長谷川恵一)

第72回 ユネスコ運動全国大会in沖縄

パネルディスカッション ■
松田真一先生・渡邊昌宏先生・天野未喜先生
二日目は、沖縄のグローバルな歴史の中で育まれた、伝統文化の公演・講話が行われた。私の最も印象に残ったのは、ユネスコの無形文化遺産に登録されていて、沖縄の古舞踊に能狂言や京劇などの要素が加えられた「組踊」であるが、どれもすばらしく感動の連続であった。帰りがけ、駐車場で偶然に舞踊に出演していた数名の女性に出会つた。「よかつたよ。ほんとに有り難う」と声をかけた。はにかみながらも返してくれた彼女たちの笑顔に、この笑顔を絶やすようなことは、一度とあってはいけないと強く感じた。文化の相互理解、そして平和を維持するには、何をしなければならないかを改めて考えさせられた大会であった。
(今堀順壽)

第16回なにわ歴史シンポジウム
■テーマ』「蘇る大阪の縄文文化」
阿内湾岸の遺跡からみた呪又社会

■基調講演 内容 ■

■開催日 平成28年12月4日 (土)
■会場 大阪歴史博物館

私部南遺跡(中期末～後期初頭)
鳩原遺跡(晚期)
三宅西遺跡(後期中葉)
讀良岡山遺跡(後期初頭～晚期後葉)

「命どう宝」沖縄の人々の強い願いが込められたサブテーマのもとに開催された。プログラムは、全体を通してユネスコ憲章の原点に立った内容であった。沖縄大会に参加してユネスコ活動に僅かでも関わってきた私にとっては、

大きいに考えさせられた二日間であった。

大会初日の高橋哲哉先生の特別講演では、沖縄の基地問題触れ、「沖縄への基地集中は、人口比から考えると、本土の人々によつて決められていることであり、そして本土が負うべき負担やリスクを肩代わりさせられている」という、講演者自身も自省の念を含めての講話は、私にとっても自省と今後の課題として、改めて突き付けられた思いであった。

二日目は、沖縄のグローバルな歴史の中で育まれた、伝統文化の公演・講話が行われた。私の最も印象に残ったのは、ユネスコの無形文化遺産に登録されていて、沖縄の古舞踊に能狂言や京劇などの要素が加えられた「組踊」であるが、どれもすばらしく感動の連続であった。帰りがけ、駐車場で偶然に舞踊に出演していた数名の女性に出会つた。「よかつたよ。ほんとに有り難う」と声をかけた。はにかみながらも返してくれた彼女たちの笑顔に、この笑顔を絶やすようなことは、一度とあってはいけないと強く感じた。文化の相互理解、そして平和を維持するには、何をしなければならないかを改めて考えさせられた大会であった。

2016
6/25・26

沖縄大会に参加して